ストックについて

ストックは①他人にやさしく、②自分にやさしく、③自然に やさしく、それが正しい使い方だ。

山のアプローチ、ザックの脇に取り付けているストックが長 く飛び出したまま、ホームやバス停でザックを降ろしたり背負 ったりするとき、そのストックの先が他人にぶつかったりしてダ メージを与えていることにまったく気づいていない中高年登山 者が少なくない。アプローチでは、ストックはザックに取り付け ず、手に持って行動するようにしたい。

実際の登山中は、ストックを前に降り出したり、後ろに跳ね 上げたりすると、前後のメンバーに迷惑がかかる。ストックは 上下運動させるように使いこなすこと。とにかく「他人にやさし い」使い方を心がけて欲しい。

さて、ストックは万能か。昨今、ストックを持つことが常識の ように考えられているフシがあるが、そんなことはない。なによ りもまず両手が空いている方が安全度は高いに決まっている。 バランスが悪い、脚力が弱いという人が、そのバックアップ に次善の策として使うのがストックである。

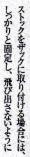
助としての使い方である。岩場や狭い道では手に持っている 方が危ない場合もあるので、T.P.O. にあわせて「自分にやさ しく」を考えて使うことだ。 ストックの石突きが路面をほじくってしまうことにも気がつい

もちろん、若い人が積極的に推進力に利用するのは方法

論としてあるわけだが、中高年登山者の場合はあくまでも補

て欲しい。そこに雨が降れば傷口を大きくする。石突きにはプ ロテクターを付けて、路面にダメージを与えないように「自然 にやさしく」使っていただきたい。

「ストックを持っているとラク」というのは一般論にすぎない。 一人一人が自分にとって安心でラクな使い方を考えて欲し いと思う。





ムテクターがはずれないように



